



みはるかせ

■発行：米子西高校 PTA 人権教育部

新年度が始まり新たに1年次生保護者部員5名を迎え、人権教育部の活動がスタートしました。人権教育部では年に2回、人権教育部広報誌「みはるかせ」の発行とPTAの人権教育研修会を予定しています。

題名の「みはるかせ」とは「はるか遠くまで見渡せ」という意味で、米子西高の校歌にも歌われている歌詞からとったものです。しっかり知識や技能を持ち、広い視野を持った大人になってこれからの社会を生きていってほしいという思いが込められた言葉です。この広報誌「みはるかせ」を通して、PTAの皆さんとつながりを作っていきたいと思います。

3年次生人権教育講演会 5月24日（水）

演題「私は、変わることができる!」

～「やればできる」の土台は「自分もできる」！ 熱と光で生きる力を～

講師 琴浦町立赤碕文化センター館長 西村敦郎さん

人間関係やコミュニケーション・学力・挑戦する力・感情のコントロール・自立などに大きく関連している「自尊感情」と「エンパワメント」をキーワードに、差別をなくす「力」について講演されました。

西村さんはご自身やご家族の体験を振り返り、その時々に影響を受けた人や出来事を取り上げながら、丁寧にお話をしてくださいました。

この社会から差別をなくすためには、一人ひとりが「自尊感情」を高め「エンパワメント」を引き出すことが重要であることを力強く語りかけてくださいました。

講演を聴かせていただいた生徒・教職員・保護者全員が、同和問題をはじめ様々な人権課題に対してこれからの自分はどうあるべきか、改めて考える機会になりました。



【生徒の感想】

- 自尊感情を高めることで、差別をなくすことにつながるということがわかった。差別は心に余裕がないときにしてしまうことが多いので、余裕がない時は自分だけで抱え込まないようにしようと思った。
- 差別の心や不安定な心は、自尊感情に関係があることを知った。自分は「差別を残す」側の人ではなく「差別をなくす」側の人になれるよう、講演などを通じて理解を深めたい。
- 自尊感情を高めるためにも、いろいろなことに挑戦していこうと思った。差別についての知識を身に付け、差別を防止していくことにも取り組んでいこうと改めて思った。

【保護者の感想】

- 人にとって大切な自尊感情を高めるには、周囲の人の温かい愛情や受容、自身の努力による自己表現などいろいろなことが関わっていることがわかった。子どもたちには自分を信じ相手を認めることができる人間関係をつくってほしい。
- 部落差別はなくなってきていると思っていたが、まだあるのだとわかった。親世代も学び続けなければならないと思うので、講演を聴いてよかった。